

2023年度
金沢学院大学
学生の学修状況・学修成果等の
検証報告書

2024年3月31日
金沢学院大学

目次

I. アドミッションポリシーの評価	1
1. 評価資料	1
1-1. 一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか（表 1 参照）	1
1-2. 入学時の学修意欲と学修継続の意思	1
1-2-1. 学ぶ意欲のある学生が入学してきたか（表 2-1、 2-2 参照）	1
1-2-2. これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか（表 3-1、 3-2、 3-3 参照）	2
2. 各学科の評価	7
2-1. 文学部文学科	7
2-2. 教育学部教育学科	10
2-3. 経済学部	13
2-3-1. 経済学科	13
2-3-2. 経営学科	16
2-4. 経済情報学部経済情報学科	19
2-5. 芸術学部芸術学科	22
2-6. スポーツ科学部スポーツ科学科	25
2-7. 栄養学部栄養学科	28
3. 大学のアドミッションポリシーに関する総合評価	31
II. カリキュラムポリシーの評価	32
1. 評価資料	32
2. 各学科の評価	33
2-1. 文学部文学科	33
2-2. 文学部教育学科／教育学部教育学科	34
2-3. 経営情報学部経営情報学科	35
2-4. 経済学部経済学科／経営学科	36
2-5. 経済情報学部経済情報学科	37
2-6. 芸術学部芸術学科	38
2-7. 人間健康学部／スポーツ科学部	39
2-7-1. 人間健康学部スポーツ健康学科	39
2-7-2. スポーツ科学部スポーツ科学科	40
2-8. 人間健康学部／栄養学部	41
2-8-1. 健康栄養学科	41
2-8-2. 栄養学科	41
3. 大学のカリキュラムポリシーに関する総合評価	43
III. ディプロマポリシーの評価	44
1. 評価資料	44
2. 各学科の評価	45

2-1. 文学部	45
2-1-1. 文学科	45
2-1-2. 教育学科.....	45
2-2. 経営情報学部経営情報学科.....	47
2-3. 経済学部.....	47
2-3-1. 経済学科.....	47
2-3-2. 経営学科.....	47
2-4. 経済情報学部経済情報学科.....	47
2-5. 芸術学部芸術学科	48
2-6. 人間健康学部／スポーツ科学部／栄養学部	49
2-6-1. 人間健康学部スポーツ健康学科	49
2-6-2. スポーツ科学部スポーツ科学科	49
2-6-3. 健康栄養学科	49
2-6-4. 栄養学部栄養学科	50
3. ディプロマポリシーに関する総合評価.....	51

I. アドミッションポリシーの評価

1. 評価資料

1-1. 一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか（表 1 参照）

2023 年度入学生に対して、入学直後に実施した学内共通の基礎学力確認テスト（英語・数学）の総合成績の平均と標準偏差を大学全体・学科別に算出し、さらに学科内で入試区分別に分類して平均を算出した。これらの平均について、大学平均+1 標準偏差以上を「学内平均を上回る」、大学平均±1 標準偏差の範囲を「学内平均並み」、大学平均-1 標準偏差未満を「学内平均を下回った」と表記した。また各学科及び各入試区分の総合成績の平均を個人の得点と見なし、学内偏差値を算出した。

大学全体の基礎学力確認テストの受験者は 807 名（前年度比-70 名）であった。平均点は、英語（35 点満点）が 17.8 点（ $SD=6.95$ ）で前年度比-0.5 点、数学（30 点満点）が 21.7 点（ $SD=4.86$ ）で前年度比-0.2 点、2 科目の総合成績（65 点満点）が 40.9 点（ $SD=10.42$ ）で前年度比-1.4 点であった。いずれの平均もほぼ前年度並みとなり、標準偏差もほとんど変化がなかった。

1-2. 入学時の学修意欲と学修継続の意思

1-2-1. 学ぶ意欲のある学生が入学してきたか（表 2-1、 2-2 参照）

入学直後に実施した新入生向けのアンケート（全 23 項目）から、学修意欲と学修への興味関心を問う 2 つの質問項目を取り出して、選択肢ごとの人数比率を大学全体と学科別に算出した。分析対象とした項目は、

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」

①とても持っている ②まあまあ持っている ③あまり持っていない ④持っていない

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」

①一致している ②一致していないが、興味関心に近い分野 ③興味関心とは異なる分野

④まだ自分の興味関心がわからない ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない

⑥その他

である。

回答者は大学全体で 807 名（前年度比-69）であった。集計の際、回答ミス等の欠損値を削除して比率を算出したため、それぞれの質問項目の総回答数は一致しない。

学修意欲を尋ねる項目 2 の有効回答数は、大学全体で 807 名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表 2-1）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

①とても持っている：332 名（41.1%、-2.68 ポイント）

②まあまあ持っている：436 名（54.0%、+0.8 ポイント）

③あまり持っていない：35 名（4.3%、+1.6 ポイント）

④持っていない：4名（0.5%、+0.3ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は95.2%（前年度比-1.8ポイント）であり、大学全体で見た場合は、入学後の学修に対して意欲的な学生が入学してきたと言える。

入学した学科の学問分野と興味関心の一致の程度を尋ねる項目23の有効回答数は、大学全体で807名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表2-2）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

①一致している：576名（71.4%、-0.2ポイント）

②一致していないが、興味関心に近い分野：127名（15.7%、+0.3ポイント）

③興味関心とは異なる分野：16名（2.0%、+0.6ポイント）

④まだ自分の興味関心がわからない：71名（8.8%、-0.4ポイント）

⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：9名（1.1%、-0.5ポイント）

⑥その他：8名（1.0%、+0.2ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は87.8%（前年度比+0.7ポイント）であり、大学全体で見た場合は、これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。ただし、全体の約9%に相当する学生が「まだ自分の興味関心がわからない」と回答しており、この点については今後も注視する必要がある。

1-2-2. これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか（表3-1、3-2、3-3参照）

入学直後に実施した新入生向けのアンケート（全23項目）から、今後の学修や大学生活への期待感、大学生活へのイメージの有無を問う3つの質問項目を取り出して、選択肢ごとの人数比率を大学全体と学科別に算出した。分析対象とした項目は、

項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」

①とても楽しみ ②まあまあ楽しみ ③あまり楽しみではない ④楽しみではない

項目9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」

①ある ②まあまあある ③あまりない ④ない

項目22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」

①とてもそう思う ②どちらかといえばそう思う

③あまりそう思わない ④まったくそう思わない

である。

回答者は大学全体で807名であった。

大学生活への期待感を尋ねる項目4の有効回答数は大学全体で807名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表3-1）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

①とても楽しみ：294名（36.4%、+1.0ポイント）

- ②まあまあ楽しみ：443名（54.9%、-1.6ポイント）
- ③あまり楽しみではない：58名（7.2%、-0.1ポイント）
- ④楽しみではない：12名（1.5%、+0.7ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は89.9%（前年度比-2.0ポイント）であり、大学全体で見た場合は、これからの学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

今後の大学生活へのイメージ形成の程度について尋ねる項目9の有効回答数は、大学全体で873名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表3-2）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

- ①ある：123名（15.3%、+3.1ポイント）
- ②まあまあある：369名（45.8%、-2.3ポイント）
- ③あまりない：266名（33.0%、-1.9ポイント）
- ④ない：47名（5.8%、+1.0ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は61.1%（前年度比+0.8ポイント）である。大学全体でも後述する学科別でも、最も回答が多くなったのは選択肢②である。今後の大学生活へのイメージは、一部の学生ではできあがっているが、その程度がやや低い学生も4割程度いることがわかる。対象となった新入生が高校1年生であったときに新型コロナウイルス感染症が拡大し始めたことにより、高校在学中にオープンキャンパスなどの進学イベントに十分参加できなかったことも影響している可能性がある。

この大学で学び続けられそうか（入学してよかったと思うか）を尋ねる項目22の有効回答数は、大学全体で807名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表3-3）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

- ①とてもそう思う：320名（39.7%、+1.9ポイント）
- ②どちらかといえばそう思う：418名（51.8%、-3.7ポイント）
- ③あまりそう思わない：59名（7.3%、+1.0ポイント）
- ④まったくそう思わない：10名（1.2%、+0.8ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は91.4%（前年度比-1.9ポイント）であり、大学全体で見た場合は、本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

表 1. 基礎学力確認テストの学科別成績一覧

英語	人数	平均	<i>SD</i>	最高	最低
文学科	139	21.4	6.28	34	3
教育学科	65	19.9	6.73	33	8
経済学科	140	15.4	6.05	31	3
経営学科	84	14.7	6.01	34	5
経済情報学科	53	15.6	6.55	30	4
芸術学科	71	18.5	7.51	34	6
スポーツ科学科	159	14.7	5.38	33	4
栄養学科	96	22.8	6.09	34	8
全体	807	17.8	6.95	34	3

数学	人数	平均	<i>SD</i>	最高	最低
文学科	139	22.8	4.18	30	6
教育学科	65	24.2	3.58	30	13
経済学科	140	20.8	5.06	29	9
経営学科	84	19.9	5.05	29	8
経済情報学科	53	21.1	4.53	30	11
芸術学科	71	21.2	4.81	30	12
スポーツ科学科	159	20.1	5.07	29	5
栄養学科	96	24.9	2.98	30	16
全体	807	21.7	4.86	30	6

総合（英語+数学）	人数	平均	<i>SD</i>	最高	最低
文学科	139	44.2	8.68	64	17
教育学科	65	44.1	9.18	59	24
経済学科	140	36.1	9.64	59	13
経営学科	84	34.6	9.33	63	19
経済情報学科	53	36.7	9.86	54	19
芸術学科	71	39.7	11.04	63	19
スポーツ科学科	159	34.8	9.14	57	13
栄養学科	96	47.7	7.86	62	32
全体	807	44.2	8.68	64	17

表 2-1. 項目2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」への回答

回答	文	教育	経済	経営	経情	芸術	スポ	栄養	全体
とても持っている	43.9	56.9	33.6	31.0	22.6	40.8	37.7	62.5	41.1
まあまあ持っている	51.8	41.5	60.0	59.5	69.8	54.9	57.2	37.5	54.0
あまり持っていない	4.3	1.5	5.0	8.3	7.5	2.8	5.0		4.3
持っていない			1.4	1.2		1.4			0.5

表 2-2. 項目23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」への回答

回答	文	教育	経済	経営	経情	芸術	スポ	栄養	全体
一致している	75.5	83.1	52.9	47.6	56.6	83.1	79.2	91.7	71.4
一致していないが、 興味関心に近い分野	12.2	12.3	25.7	21.4	26.4	11.3	12.6	6.3	15.7
興味関心とは異なる 分野	1.4	3.1	3.6	4.8	1.9		1.3		2.0
まだ自分の興味関心 がわからない	9.4	1.5	15.7	20.2	11.3	1.4	6.3	1.0	8.8
入学した学部・学科・ 専攻の内容がよくわ からない	0.7		0.7	2.4	1.9	4.2	0.6		1.1
その他	0.7		1.4	3.6	1.9			1.0	1.0

表 3-1. 項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」への回答

回答	文	教育	経済	経営	経情	芸術	スポ	栄養	全体
とても楽しみ	23.7	47.7	35.7	34.5	39.6	40.8	42.8	34.4	36.4
まあまあ楽しみ	66.2	50.8	52.1	57.1	50.9	52.1	47.8	59.4	54.9
あまり楽しみではない	9.4	1.5	10.7	7.1	7.5	5.6	5.7	6.3	7.2
楽しみではない	0.7		1.4	1.2	1.9	1.4	3.8		1.5

表 3-2. 項目9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」への回答

回答	文	教育	経済	経営	経情	芸術	スポ	栄養	全体
ある	10.9	20.0	14.3	20.5	5.7	16.9	22.6	7.3	15.3
まあまあある	42.0	41.5	48.6	44.6	24.5	54.9	49.1	51.0	45.8
あまりない	37.7	30.8	31.4	28.9	62.3	25.4	25.8	35.4	33.0
ない	9.4	7.7	5.7	6.0	7.5	2.8	2.5	6.3	5.8

表 3-3. 項目22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったですか」への回答

回答	文	教育	経済	経営	経情	芸術	スポ	栄養	全体
とてもそう思う	23.0	49.2	35.7	38.1	43.4	42.3	52.2	39.6	39.7
どちらかといえばそう思う	66.9	44.6	51.4	48.8	49.1	47.9	42.1	58.3	51.8
あまりそう思わない	9.4	4.6	10.0	11.9	7.5	9.9	3.8	2.1	7.3
まったくそう思わない	0.7	1.5	2.9	1.2			1.9		1.2

2. 各学科の評価

2-1. 文学部文学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テストの結果】

	英語	数学	総合
受験者数	139	139	139
平均	21.4	22.8	44.2
標準偏差	6.28	4.18	8.68
前年度比	+0.3	-0.3	0.0
大学平均との差	+3.6	+1.1	+4.7

【結果の概要】

- ・英語、数学、総合成績のいずれも大学の平均を上回った。前年度比では、ほとんど差がない。
- ・総合成績を学内偏差値に換算すると 54.51 となり、大学全体の上位から中位に位置する。
- ・入試区分別では、共通テスト利用選抜（学内偏差値 59.48）と一般選抜（58.00）の入学者の成績が高い。附属高校特別進学制度の学内偏差値が 50 を超えるのは、文学科と栄養学科のみ。学内偏差値が 45 に届かない入試区分はない。
- ・総合成績が大学平均以上または大学平均並み（大学平均-1 標準偏差以上=29.04 点以上）の受験者は学科の 94.2%。大学平均-1 標準偏差未満（受験者全体の下位 15.93%に相当）の受験者の比率は 5.8%で、前年度よりも 3.9 ポイント下がった。

評価

基本的な学力にややばらつきはあるものの、学内偏差値が 40 に届かない入試区分はなく、大学での学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：139 名

- ①とても持っている：61 名（43.9%、-0.4 ポイント）
- ②まあまあ持っている：72 名（51.8%、-2.3 ポイント）

③あまり持っていない：6名（1.5%、+2.8ポイント）

④持っていない：0名（0.0%）

・選択肢①と選択肢②の合計は95.7%（前年度比-2.8ポイント）で、大学全体の数値（95.2%）より0.5ポイント高い。

・一方、「持っていない」と回答した者はおらず、学修意欲がある学生が入学したと言える。

項目23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」（表2-2）

有効回答数：139名

①一致している：105名（75.5%、+2.2ポイント）

②一致していないが、興味関心に近い分野：17名（12.2%、-3.7ポイント）

③興味関心とは異なる分野：3名（1.4%、+0.9ポイント）

④まだ自分の興味関心がわからない：13名（9.4%、+1.1ポイント）

⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：1名（0.7%、-0.8ポイント）

⑥その他：1名（0.7%、+0.2ポイント）

・選択肢①と選択肢②の合計は87.8%（前年度比-1.4ポイント）で、大学全体の数値（87.1%）よりも0.7ポイント高い。これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学したと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表3-1）

有効回答数：139名

①とても楽しみ：33名（23.7%、-3.4ポイント）

②まあまあ楽しみ：92名（66.2%、+2.1ポイント）

③あまり楽しみではない：13名（9.4%、+1.7ポイント）

④楽しみではない：1名（0.7%、-0.3ポイント）

・選択肢①と選択肢②の合計は89.9%（前年度比-1.4ポイント）であり、大学全体の数値（91.3%）よりも1.4ポイント低い。

・学科全体の約90%が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学したと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：138 名 (欠損 1)

- ①ある：15 名 (10.9%、+4.1 ポイント)
- ②まあまあある：58 名 (42.0%、-3.6 ポイント)
- ③あまりない：52 名 (37.7%、-4.8 ポイント)
- ④ない：13 名 (9.4%、+4.2 ポイント)

- ・選択肢①と選択肢②の合計は 52.9% (前年度比+0.6 ポイント) である。大学全体の数値 (61.1%) よりも 8.2 ポイント低い。この差は前年度とほぼ同等である。
- ・47.1%の学生が今後の大学生活へのイメージを持っていない。
- ・これらの数値は、文学科での大学生活のイメージが作りにくい可能性を示唆している。新型コロナウイルス感染症の拡大によって高校在学中の進学イベント参加が十分でなく、大学生活の情報を具体的に得られる機会が減少したことが影響している可能性がある。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」(表 3-3)

有効回答数：139 名

- ①とてもそう思う：32 名 (23.0%、-10.8 ポイント)
- ②どちらかといえばそう思う：93 名 (66.9%、+3.8 ポイント)
- ③あまりそう思わない：13 名 (9.4%、+6.8 ポイント)
- ④まったくそう思わない：1 名 (0.7%、+0.2 ポイント)

- ・選択肢①と選択肢②の合計は 89.9% (前年度比-7.0 ポイント) であり、大学全体の数値 (91.4%) よりも 1.5 ポイント低い。
- ・約 90%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言えるが、「あまりそう思わない」の比率が上がっていることには留意すべきである。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が入学したと判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さや入学に納得していない層の比率が上がっていることについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、文学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-2. 教育学部教育学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テストの結果】

	英語	数学	総合
受験者数	65	65	65
平均	19.9	24.2	44.1
標準偏差	6.73	3.58	9.18
前年度比	-0.8	-0.4	-1.2
大学平均との差	+2.2	+2.4	+4.6

【結果の概要】

- ・英語、数学、総合成績のいずれも大学の平均を上回った。前年度比ではわずかに低下傾向。
- ・総合成績を学内偏差値に換算すると 54.41 となり、大学全体の上位から中位に位置する。
- ・入試区分別では、共通テスト利用選抜（学内偏差値 67.14）と一般選抜（61.52）の入学者の成績が高い。指定校推薦は、栄養学科に次いで 2 番目に学内偏差値が高い（55.72）。
- ・総合成績が大学平均以上または大学平均並み（大学平均-1 標準偏差以上=29.04 点以上）の受験者は学科の 92.3%。大学平均-1 標準偏差未満（受験者全体の下位 15.93%に相当）の受験者の比率は 7.7%で、前年度よりも 3.4 ポイント下がった。

評価

基本的な学力にややばらつきはあるものの、学内偏差値が 40 に届かない入試区分はなく、大学での学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：65 名

- ①とても持っている：37 名（56.9%、-8.4 ポイント）
- ②まあまあ持っている：27 名（41.5%、+6.8 ポイント）
- ③あまり持っていない：1 名（1.5%、+1.5 ポイント）
- ④持っていない：0 名（増減なし）

- ・選択肢①と選択肢②の合計が 98.5%（前年度比－1.5%）で、大学全体の数値（95.2%）よりも 3.3 ポイント高い。
- ・学科全体として、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」（表 2-2）

有効回答数：65 名

- ①一致している：54 名（83.1%、+9.5 ポイント）
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：8 名（12.3%、－5.7 ポイント）
- ③興味関心とは異なる分野：2 名（3.1%、+0.3 ポイント）
- ④まだ自分の興味関心がわからない：1 名（1.5%、－2.6 ポイント）
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：0 名（－1.4 ポイント）
- ⑥その他：0 名（増減なし）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は 95.4%（前年度比+3.7 ポイント）であり、大学全体の数値（87.1%）よりも 8.3 ポイント高い。
- ・前年度に比べ、「一致している」と回答した学生の比率が 9.5 ポイント上がり、従来と同じく前年度と同様に、小中学校の教員や幼稚園教諭、保育士など、卒業後の進路が明確な教育学科の特性を理解し、それらの進路を目指す学生が多いことが窺える。
- ・したがって、これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学したと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表 3-1）

有効回答数：65 名分

- ①とても楽しみ：31 名（47.7%、+11.6 ポイント）
- ②まあまあ楽しみ：33 名（50.8%、－3.4 ポイント）
- ③あまり楽しみではない：1 名（1.5%、－8.2 ポイント）
- ④楽しみではない：0 名（増減なし）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は 98.5%（前年度比－3.3 ポイント）であり、大学全体の数値（91.3%）よりも 7.1 ポイント高い。また全学科中で最も高い数値である。
- ・学科のほぼ全員が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：65 名

- ①ある：13 名 (20.0%、+4.7 ポイント)
- ②まあまあある：27 名 (41.5%、+1.3 ポイント)
- ③あまりない：20 名 (30.8%、-2.6 ポイント)
- ④ない：5 名 (7.7%、-3.4 ポイント)

- ・選択肢①と選択肢②の合計は 61.5% (前年度比+6.0 ポイント) である。大学全体の数値 (61.1%) よりも 0.4 ポイント高い。
- ・学びの目標が比較的明確な学科であるにもかかわらず、約 4 割の学生が今後の大学生活へのイメージを持っていないことを示している。
- ・これらの数値は、教育学科での大学生活のイメージが作りにくい可能性を示唆している。新型コロナウイルス感染症の拡大によって高校在学中の進学イベント参加が十分でなく、大学生活の情報を具体的に得られる機会が減少したことが影響している可能性がある。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」(表 3-3)

有効回答数：65 名

- ①とてもそう思う：32 名 (49.2%、+9.0 ポイント)
- ②どちらかといえばそう思う：29 名 (44.6%、-2.6 ポイント)
- ③あまりそう思わない：3 名 (4.6%、-6.5 ポイント)
- ④まったくそう思わない：1 名 (1.5%、+0.1 ポイント)

- ・選択肢①と選択肢②の合計は 93.8% (前年度比+6.3 ポイント) であり、大学全体の数値 (91.4%) よりも 2.4 ポイント高い。
- ・90%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、教育学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-3. 経済学部

2-3-1. 経済学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テストの結果】

	英語	数学	総合
受験者数	140	140	140
平均	15.4	20.8	36.1
標準偏差	6.05	5.06	9.64
前年度比	-0.8	-1.4	-2.3
大学平均との差	-2.4	-1.4	-3.3

【結果の概要】

- ・英語、数学、総合成績のいずれも大学の平均を下回った。前年度比ではわずかに低下傾向。
- ・総合成績を学内偏差値に換算すると 46.81 となり、大学全体の中下位に位置する。
- ・入試区分別では、共通テスト利用選抜（学内偏差値 63.95）の入学者の成績が高い。指定校推薦は、栄養学科に次いで 2 番目に学内偏差値が高い（55.72）。
- ・総合成績が大学平均以上または大学平均並み（大学平均-1 標準偏差以上=29.04 点以上）の受験者は学科の 75.7%。大学平均-1 標準偏差未満（受験者全体の下位 15.93%に相当）の受験者の比率は 24.3%で、前年度よりも 5.0 ポイント上がった。

評価

大学での学修に必要な基礎学力に関しては、全体の 4 分の 3 の学生は十分な基礎学力を備えていると言え、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。一方で、残る約 4 分の 1 の学生の基礎学力には注意が必要であるかもしれない。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：140 名

- ①とても持っている：47 名（33.6%、-1.6 ポイント）
- ②まあまあ持っている：84 名（60.0%、-0.2 ポイント）
- ③あまり持っていない：7 名（3.7%、+1.3 ポイント）

④持っていない：2名（1.4%、+0.5ポイント）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は93.6%（前年度比-1.6ポイント）で、大学全体の数値（95.2%）よりも1.6ポイント低くなった。
- ・学修意欲があると回答した学生が90%に達しており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」（表2-2）

有効回答数：140名

①一致している：74名（52.9%、+0.6ポイント）

②一致していないが、興味関心に近い分野：36名（25.7%、+3.7ポイント）

③興味関心とは異なる分野：5名（3.6%、+0.8ポイント）

④まだ自分の興味関心がわからない：22名（15.7%）

⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：1名（0.7%）

⑥その他：2名（1.4%、+0.9ポイント）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は78.6%（前年度比+4.3ポイント）であり、大学全体の数値（87.1%）よりも8.5ポイント低く、全学科の中で80%未満の2学科のうちの1学科である。前年度比では比率が上がっている。
- ・これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言えるが、選択肢④と選択肢⑤の合計が全学科中2番目に高い値（16.4%）であり、今後の学修について注意が必要であるかもしれない。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表3-1）

有効回答数：140名

①とても楽しみ：50名（35.7%、+5.4ポイント）

②まあまあ楽しみ：73名（52.1%、-6.6ポイント）

③あまり楽しみではない：15名（10.7%、+1.5ポイント）

④楽しみではない：2名（1.4%、-0.4ポイント）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は87.9%（前年度比-1.1ポイント）であり、大学全体の数値（91.3%）より3.5ポイント低い。
- ・80%以上がこれからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の

期待を持った学生が入学したと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：140 名

- ①ある：20 名 (14.3%、+4.1 ポイント)
- ②まあまあある：68 名 (48.6%、+1.3 ポイント)
- ③あまりない：44 名 (31.4%、-6.5 ポイント)
- ④ない：8 名 (5.7%、+1.1 ポイント)

- ・選択肢①と選択肢②の合計は 62.9% (前年度比+5.4 ポイント) で、大学全体の数値 (61.1%) よりも 1.7 ポイント高い。
- ・4 割程度の学生が、大学生活のイメージを作りにくい可能性を示唆している。新型コロナウイルス感染症の拡大によって高校在学中の進学イベント参加が十分でなく、大学生活の情報を具体的に得られる機会が減少したことが影響している可能性がある。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」(表 3-3)

有効回答数：140 名

- ①とてもそう思う：50 名 (35.7%、+10.0 ポイント)
- ②どちらかといえばそう思う：72 名 (51.4%、-11.0 ポイント)
- ③あまりそう思わない：14 名 (10.0%、-1.9 ポイント)
- ④まったくそう思わない：4 名 (2.9%、+2.9 ポイント)

- ・選択肢①と選択肢②の合計は 87.1% (前年度比-0.9 ポイント) であった。大学全体の数値 (91.4%) より 4.3 ポイント低くなった。
- ・80%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、学科の学修内容と興味関心の一致の程度がやや低くなっていることや、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、経済学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-3-2. 経営学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テストの結果】

	英語	数学	総合
受験者数	84	84	84
平均	14.7	19.9	34.6
標準偏差	6.01	5.06	9.33
前年度比	-1.7	-2.1	-3.8
大学平均との差	-3.1	-1.8	-4.9

【結果の概要】

- ・英語、数学、総合成績のいずれも大学の平均を下回った。前年度比でも低下傾向にある。
- ・総合成績を学内偏差値に換算すると45.33となり、全学部中で最も低い値である。大学全体の下位に位置する。
- ・入試区分別では、共通テスト利用選抜（学内偏差値63.23）の入学者の成績が高いが、入学者の実数は4名である。公募制（専願）の区分では、学内偏差値が40.6となっているが、こちらも入学者の実数は6名と少ない。
- ・総合成績が大学平均以上または大学平均並み（大学平均-1標準偏差以上=29.04点以上）の受験者は学科の67.9%で全学科中最も低い。大学平均-1標準偏差未満（受験者全体の下位15.93%に相当）の受験者の比率は32.1%で、前年度よりも5.8ポイント上がった。

評価

大学での学修に必要な基礎学力に関しては、学科の約3割に学力的な問題が示唆される。基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断するが、一部の学生については入学後の学修状況についての注視が必要であるかもしれない。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表2-1）

有効回答数：84名

- ①とても持っている：26名（31.0%、-5.9ポイント）
- ②まあまあ持っている：50名（59.5%、+0.6ポイント）

③あまり持っていない：7名（8.3%、+4.1ポイント）

④持っていない：1名（1.2%、+1.2ポイント）

・選択肢①と選択肢②の合計は90.5%（前年度比-5.3ポイント）で、大学全体の数値（95.2%）よりも1.6ポイント低くなった。

・学修意欲があると回答した学生は90%を超えており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」（表2-2）

有効回答数：84名

①一致している：40名（47.6%、+3.1ポイント）

②一致していないが、興味関心に近い分野：18名（21.4%、-3.7ポイント）

③興味関心とは異なる分野：4名（4.8%、-0.2ポイント）

④まだ自分の興味関心がわからない：17名（20.2%、-0.9ポイント）

⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：2名（2.4%、-0.2ポイント）

⑥その他：3名（3.6%、+2.1ポイント）

・選択肢①と選択肢②の合計は69.0%（前年度比-11.8ポイント）であった。前年度比での低下の幅が全学科中最も大きい。また、大学全体の数値（87.1%）よりも18.1ポイント低く、全学科中最も低い値である。

・約7割の学生が興味関心との一致傾向を示す一方で、選択肢④と選択肢⑤の合計が22.6%に達しており、今後の学修について注意が必要であるかもしれない。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表3-1）

有効回答数：84名

①とても楽しみ：29名（34.5%、-8.6ポイント）

②まあまあ楽しみ：48名（57.1%、+6.6ポイント）

③あまり楽しみではない：6名（7.1%、+1.9ポイント）

④楽しみではない：1名（1.2%、+0.1ポイント）

・選択肢①と選択肢②の合計は91.7%（前年度比-2.0ポイント）であり、大学全体の数値（91.3%）よりも0.4ポイント高くなった。今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：83 名（欠損 1）

- ①ある：17 名（20.5%、+2.6 ポイント）
- ②まあまあある：37 名（44.6%、-7.0 ポイント）
- ③あまりない：24 名（28.9%、+2.6 ポイント）
- ④ない：5 名（6.0%、+1.8 ポイント）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は 65.1%（前年度比-4.4 ポイント）で、大学全体の数値（61.1%）よりも 3.9 ポイント高い。
- ・一方、35%程度の学生が大学生活のイメージを作りにくい可能性を示唆している。新型コロナウイルス感染症の拡大によって高校在学中の進学イベント参加が十分でなく、大学生活の情報を具体的に得られる機会が減少したことが影響している可能性がある。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」(表 3-3)

有効回答数：84 名

- ①とてもそう思う：32 名（38.1%、-4.0 ポイント）
- ②どちらかといえばそう思う：41 名（50.5%、-1.7 ポイント）
- ③あまりそう思わない：10 名（6.3%、+5.6 ポイント）
- ④まったくそう思わない：1 名（1.1%、+0.1 ポイント）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は 86.9%（前年度比-5.7 ポイント）で、大学全体の数値（91.4%）とよりも 4.5 ポイント低い。
- ・80%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも 80%以上の学生が高いと回答している。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

総合評価

以上の分析から、経営学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-4. 経済情報学部経済情報学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テストの結果】

	英語	数学	総合
受験者数	53	53	53
平均	15.6	21.1	36.7
標準偏差	6.55	4.53	9.86
前年度比	-0.3	-1.6	-1.9
大学平均との差	-2.2	-0.6	-2.8

【結果の概要】

- ・英語と総合成績は大学の平均を下回ったが、数学は大学平均並みであった。前年度比ではやや低下傾向にある。
- ・総合成績を学内偏差値に換算すると 47.31 となり、大学全体の中下位に位置する。
- ・入試区分別では、共通テスト利用選抜（学内偏差値 59.79）の入学者の成績が高いが、入学者の実数は 3 名である。公募制（専願）の区分では、学内偏差値が 39.38 となり、全学科のすべての入試区分の中で最も低い、入学者の実数は 5 名である。
- ・総合成績が大学平均以上または大学平均並み（大学平均-1 標準偏差以上=29.04 点以上）の受験者は学科の 73.6%。大学平均-1 標準偏差未満（受験者全体の下位 15.93%に相当）の受験者の比率は 26.4%で、前年度よりも 6.1 ポイント上がった。

評価

大学での学修に必要な基礎学力に関しては、全体の 4 分の 3 の学生は十分な基礎学力を備えていると言え、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。一方で、残る約 4 分の 1 の学生の基礎学力には注意が必要であるかもしれない。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：53 名

- ①とても持っている：12 名（22.6%、+2.4 ポイント）
- ②まあまあ持っている：37 名（69.8%、-4.5 ポイント）

③あまり持っていない：4名（7.5%、+2.1ポイント）

④持っていない：0名（増減なし）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は92.5%（前年度比-2.1ポイント）で、大学全体の数値（95.2%）よりも2.7ポイント低い。
- ・全体の約90%の学生が「学修意欲がある」と回答しており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」（表2-2）

有効回答数：53名分

①一致している：30名（56.6%、+5.3ポイント）

②一致していないが、興味関心に近い分野：14名（26.4%、+4.8ポイント）

③興味関心とは異なる分野：1名（1.9%、-2.2ポイント）

④まだ自分の興味関心がわからない：6名（11.3%、-7.6ポイント）

⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：1名（1.9%、-0.8ポイント）

⑥その他：1名（1.9%、+0.5ポイント）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は83.0%（前年度比+10.0ポイント）であった。大学全体の数値（87.1%）よりも4.1ポイント低い。
- ・これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表3-1）

有効回答数：53名

①とても楽しみ：21名（39.6%、+11.2ポイント）

②まあまあ楽しみ：27名（50.9%、-9.9ポイント）

③あまり楽しみではない：4名（7.5%、-1.9ポイント）

④楽しみではない：1名（1.9%、+0.5ポイント）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は90.6%（前年度比+1.4ポイント）であり、大学全体の数値（91.3%）より0.8ポイント低い。
- ・90%以上が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：53 名

- ①ある：3 名 (5.7%、-9.2 ポイント)
- ②まあまあある：13 名 (24.5%、-21.4 ポイント)
- ③あまりない：33 名 (62.3%、+28.5 ポイント)
- ④ない：4 名 (5.4%、+2.1 ポイント)

- ・ 選択肢①と選択肢②の合計は 30.2% (前年度比-30.6 ポイント) で、大学全体の数値 (61.1%) よりも 30.9 ポイント低く、全学科中最も低い値である。前年度比の低下幅も全学科中最も大きい。
- ・ 今後の大学生活へのイメージを持っていない学生が約 70%を占めており、今後の指導に留意する必要がある。新型コロナウイルス感染症の拡大によって高校在学中の進学イベント参加が十分でなく、大学生活の情報を具体的に得られる機会が減少したことが影響している可能性がある。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」(表 3-3)

有効回答数：53 名

- ①とてもそう思う：23 名 (43.4%、+20.4 ポイント)
- ②どちらかといえばそう思う：26 名 (49.1%、-21.2 ポイント)
- ③あまりそう思わない：4 名 (7.5%、+0.8 ポイント)
- ④まったくそう思わない：0 名 (増減なし)

- ・ 選択肢①と選択肢②の合計は 92.5% (前年度比-0.8 ポイント) で、大学全体の数値 (91.4%) よりも 1.1 ポイント高い。
- ・ 90%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、学科の学修内容と興味関心の一致の程度が低いことや、今後の学生生活へのイメージ形成が極めて低いことについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、経済情報学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-5. 芸術学部芸術学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テストの結果】

	英語	数学	総合
受験者数	71	71	71
平均	18.5	21.2	39.7
標準偏差	7.51	4.81	11.04
前年度比	-0.8	-1.5	-2.3
大学平均との差	+0.8	-0.5	+0.3

【結果の概要】

- ・英語、数学、総合成績とも、ほぼ大学の平均並みである。前年度比ではやや低下傾向である。
- ・総合成績を学内偏差値に換算すると 50.26 となり、大学全体の中位に位置する。
- ・入試区分別では、共通テスト利用選抜（学内偏差値 64.14）の入学者の成績が高い。
- ・総合成績が大学平均以上または大学平均並み（大学平均-1 標準偏差以上=29.04 点以上）の受験者は学科の 81.7%。大学平均-1 標準偏差未満（受験者全体の下位 15.93%に相当）の受験者の比率は 18.3%で、前年度よりも 7.3 ポイント上がった。

評価

大学での学修に必要な基礎学力に関しては、大半の学生は十分な基礎学力を備えていると言える。したがって、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。s 受験生数は前年度から 2 名減ったのみであるが、総合成績の標準偏差 11.00 と全学科中最も大きい値になっていること、そして下位に相当する学生の比率が上昇していることから、学科内での基礎学力の格差が拡大した可能性がある。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：71 名

- ①とても持っている：29 名（40.8%、-0.3 ポイント）
- ②まあまあ持っている：39 名（54.9%、+1.5 ポイント）
- ③あまり持っていない：2 名（2.8%、-1.3 ポイント）

④持っていない：1名（1.4%、増減なし）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は95.8%（前年度比+1.3ポイント）で、大学全体の数値（95.2%）よりも0.6ポイント高い。
- ・学修意欲があると回答した学生が90%を超えており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」（表2-2）

有効回答数：71名

①一致している：59名（83.1%、+2.5ポイント）

②一致していないが、興味関心に近い分野：8名（11.3%、-2.6ポイント）

③興味関心とは異なる分野：0名（増減なし）

④まだ自分の興味関心がわからない：1名（1.4%、-1.4ポイント）

⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：3名（4.2%、+2.8ポイント）

⑥その他：0名（0.0%、-1.4ポイント）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は94.4%（前年度比-0.1ポイント）で、大学全体の数値（87.1%）よりも7.3ポイント高い。
- ・芸術学科は、学科の特性からみて学生の志望と入学した学問分野が一致する傾向が高くなると考えられるが、実際に90%以上が興味を持つ分野であると回答している。これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表3-1）

有効回答数：71名

①とても楽しみ：29名（40.8%、+9.3ポイント）

②まあまあ楽しみ：37名（52.1%、-10.9ポイント）

③あまり楽しみではない：4名（5.6%、+0.2ポイント）

④楽しみではない：1名（1.4%、+1.4ポイント）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は93.0%（前年度比-1.6ポイント）で、大学全体の数値（91.3%）よりも1.6ポイント高くなった。
- ・90%以上が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：71 名

- ①ある：12 名 (16.9%、+11.4 ポイント)
- ②まあまあある：39 名 (54.9%、+0.1 ポイント)
- ③あまりない：18 名 (25.4%、-10.3 ポイント)
- ④ない：2 名 (2.8%、-1.3 ポイント)

- ・ 選択肢①と選択肢②の合計は 71.8% (前年度比+11.6 ポイント) で、大学全体の数値 (61.1%) よりも 10.7 ポイント高く、全学科中最も高い値となった。また前年度比での上昇幅も最も大きい値である。約 7 割の学生が今後の大学生活へのイメージを持っていることを示しており、他の学科とは対照的である。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」(表 3-3)

有効回答数：71 名

- ①とてもそう思う：30 名 (42.3%、+6.6 ポイント)
- ②どちらかといえばそう思う：34 名 (47.9%、-9.6 ポイント)
- ③あまりそう思わない：7 名 (9.9%、+3.0 ポイント)
- ④まったくそう思わない：0 名 (増減なし)

- ・ 選択肢①と選択肢②の合計は 90.1% (前年度比-3.0 ポイント) で、大学全体の数値 (91.4%) よりも 1.3 ポイント低い。
- ・ 90%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、芸術学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-6. スポーツ科学部スポーツ科学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テストの結果】

	英語	数学	総合
受験者数	159	159	159
平均	14.7	20.1	34.8
標準偏差	5.38	5.07	9.14
前年度比	-0.5	-0.7	-1.2
大学平均との差	-3.0	-1.6	-4.6

【結果の概要】

- ・英語、数学、総合成績とも、ほぼ大学の平均並みである。前年度比ではやや低下傾向である。
- ・総合成績を学内偏差値に換算すると45.54となり、大学全体の下位に位置する。
- ・入試区分別では、一般選抜（学内偏差値57.11）の入学者の成績が高いが、入学者の実数は8名である。スポーツ科学科は、学科の特性上スポーツエントリー選抜に入学者が集中しており（101名）、この区分の学内偏差値は44.35である。20名以上いる入試区分の中では、全学科で最も低い。
- ・総合成績が大学平均以上または大学平均並み（大学平均-1標準偏差以上=29.04点以上）の受験者は学科の74.2%。大学平均-1標準偏差未満（受験者全体の下位15.93%に相当）の受験者の比率は25.8%で、前年度よりも9.3ポイント下がった。

評価

大学での学修に必要な基礎学力に関しては、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると考えられ、また成績が下位に位置する学生の比率は前年度比で低下しているが、学科のボリュームゾーンである入試区分の学生の入学後の学修状況については、注視が必要であるかもしれない。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表2-1）

有効回答数：159名

- ①とても持っている：60名（37.7%、-7.0ポイント）
- ②まあまあ持っている：91名（57.2%、+4.9ポイント）
- ③あまり持っていない：8名（5.0%、+2.1ポイント）

④持っていない：0名（増減なし）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は 95.0%（前年度比－2.1 ポイント）で、大学全体の数値（95.2%）とよりも 0.2 ポイント低い。
- ・学修意欲があると回答した学生が 95%に達しており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」（表 2-2）

有効回答数：159 名

- ①一致している：126 名（79.2%、－0.6 ポイント）
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：20 名（12.6%、＋0.2 ポイント）
- ③興味関心とは異なる分野：2 名（1.3%、＋1.3 ポイント）
- ④まだ自分の興味関心がわからない：10 名（6.3%、＋1.0 ポイント）
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：1 名（0.6%、－1.1 ポイント）
- ⑥その他：0 名（0.0%、－0.6 ポイント）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は 91.8%（前年度比－0.5 ポイント）で、大学全体の数値（87.1%）よりも 4.7 ポイント高くなった。
- ・スポーツ科学科は、学科の特性からみて学生の志望と入学した学科の学問分野が一致する傾向が高くなると考えられるが、実際に 90%以上が興味を持つ分野であると回答している。これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表 3-1）

有効回答数：159 名

- ①とても楽しみ：68 名（42.8%、－4.3 ポイント）
- ②まあまあ楽しみ：76 名（47.8%、＋2.5 ポイント）
- ③あまり楽しみではない：9 名（5.7%、－1.4 ポイント）
- ④楽しみではない：6 名（3.8%、＋3.2 ポイント）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は 90.6%（前年度比－1.8 ポイント）で、大学全体の数値（91.3%）よりも 0.8 ポイント低い。
- ・90%以上が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：159 名

- ①ある：36 名 (22.6%、+6.8 ポイント)
- ②まあまあある：78 名 (49.1%、-3.9 ポイント)
- ③あまりない：41 名 (25.8%、-1.9 ポイント)
- ④ない：4 名 (2.5%、-1.0 ポイント)

- ・ 選択肢①と選択肢②の合計は 71.7% (前年度比+2.9 ポイント) で、大学全体の数値 (61.1%) よりも 10.6 ポイント高く、全学科の中で 2 番目に高い値となった。約 7 割の学生が今後の大学生活へのイメージを持っていることを示しており、他の学科とは対照的である。
- ・ スポーツ科学科は、学科の特性として運動部での活動を視野に入れて入学した学生が多く、それがイメージ形成の高さに関係しているかもしれない。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」(表 3-3)

有効回答数：159 名

- ①とてもそう思う：83 名 (52.2%、+1.0 ポイント)
- ②どちらかといえばそう思う：67 名 (42.1%、+0.4 ポイント)
- ③あまりそう思わない：6 名 (3.8%、-2.7 ポイント)
- ④まったくそう思わない：3 名 (1.9%、+1.3 ポイント)

- ・ 選択肢①と選択肢②の合計は 94.3% (前年度比+1.4 ポイント) で、大学全体の数値 (91.4%) よりも 2.9 ポイント高く、全学科の中で 2 番目に高い値となった。
- ・ 90%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

スポーツ科学科は、アドミッションポリシーの適用において、学科特性として入学後の活動意欲に重きを置く学科である。学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。したがって、学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

総合評価

以上の分析から、スポーツ科学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-7. 栄養学部栄養学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テストの結果】

	英語	数学	総合
受験者数	96	96	96
平均	22.8	24.9	47.7
標準偏差	6.09	2.98	7.86
前年度比	+0.8	+0.6	+1.4
大学平均との差	+5.1	+3.2	+8.2

【結果の概要】

- ・英語、数学、総合成績とも大学の平均を上回っており、すべての全学科中で最も高い値である。
- ・総合成績を学内偏差値に換算すると 57.91 となり、大学全体の最上位に位置する。
- ・入試区分別では、共通テスト利用選抜（学内偏差値 66.82）の入学者の成績が最も高いが、この区分の入学者 6 名である。栄養学科で最も人数の多い入試区分（30 名）である一般選抜でも、学内偏差値 61.99 と、高い値になっている。学内偏差値が 50 未満の入試区分はない。
- ・総合成績が大学平均以上または大学平均並み（大学平均－1 標準偏差以上＝29.04 点以上）の受験者は学科の 100.0%に達する

評価

基本的な学力は学内でも上位に位置しており、大学での学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：96 名

- ①とても持っている：60 名（62.5%、－1.1 ポイント）
- ②まあまあ持っている：36 名（37.5%、＋2.3 ポイント）
- ③あまり持っていない：0 名（0.0%、－1.1 ポイント）
- ④持っていない：0 名（増減なし）

- ・回答者全員が選択肢①または選択肢②と回答し、合計は 100.0%（前年度比+1.1 ポイント）に達した。大学全体の数値（95.2%）よりも 4.8 ポイント高い。
- ・栄養学科は、卒業時に国家試験の受験を目標としており、学修意欲の高さは重要な評価ポイントである。ほぼ全員が学修意欲があると回答しており、学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」（表 2-2）

有効回答数：96 名分

- ①一致している：88 名（91.7%、+0.8 ポイント）
 - ②一致していないが、興味関心に近い分野：6 名（6.3%、+0.6 ポイント）
 - ③興味関心とは異なる分野：0 名（0.0%、増減なし）
 - ④まだ自分の興味関心がわからない：1 名（1.0%、-1.2 ポイント）
 - ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：0 名（0.0%、-1.1 ポイント）
 - ⑥その他：1 名（1.0%、+1.0 ポイント）
- ・選択肢①と選択肢②の合計は 97.9%（前年度比+1.3 ポイント）で、大学全体の数値（87.1%）よりも 10.8 ポイント高く、全学科中最も高い値となった。
 - ・栄養学科は、学科の特性からみて学生の志望と入学した学科の学問分野が一致する傾向が高くなると考えられるが、ほぼ全員が興味を持つ分野であると回答している。これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表 3-1）

有効回答数：96 名

- ①とても楽しみ：33 名（34.4%、-3.1 ポイント）
 - ②まあまあ楽しみ：57 名（59.4%、+1.4 ポイント）
 - ③あまり楽しみではない：6 名（6.3%、+1.7 ポイント）
 - ④楽しみではない：0 名（増減なし）
- ・選択肢①と選択肢②の合計は 93.8%（前年度比-1.7 ポイント）で、大学全体の数値（91.3%）よりも 2.4 ポイント高く、全学科中で 2 番目に高い値となった。
 - ・90%以上が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：96 名分 (欠損なし)

- ①ある：7 名 (7.3%、-6.3 ポイント)
- ②まあまあある：49 名 (51.0%、+6.7 ポイント)
- ③あまりない：34 名 (35.4%、-4.4 ポイント)
- ④ない：6 名 (6.3%、+4.0 ポイント)

- ・ 選択肢①と選択肢②の合計は 58.3% (前年度比+0.4 ポイント) で、大学全体の数値 (61.1%) よりも 2.8 ポイント低い。一昨年度は約 7 割の学生が今後の大学生活へのイメージを持っていたが、昨年度から数値が低下している。
- ・ 栄養学科は卒業後の進路が明確な学科であるが、その進路が学生生活に関する十分なイメージ形成につながっていない。今後の指導に留意する必要があるかもしれない。新型コロナウイルス感染症の拡大によって、高校在学中にオープンキャンパスなどの進学イベントに十分参加できず、大学生活の情報を具体的に得られる機会が減少したことも影響している可能性がある。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」(表 3-3)

有効回答数：96 名

- ①とてもそう思う：38 名 (39.6%、-3.5 ポイント)
- ②どちらかといえばそう思う：56 名 (58.3%、+3.8 ポイント)
- ③あまりそう思わない：2 名 (2.1%、-0.2 ポイント)
- ④まったくそう思わない：0 名 (増減なし)

- ・ 選択肢①と選択肢②の合計は 97.9% (前年度比+0.2 ポイント) で、大学全体の数値 (91.4%) よりも 6.5 ポイント高く、全学科中最も高い値である。
- ・ 95%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

栄養学科は、管理栄養士国家試験の合格を目標としており、学修意欲の高さは重要な評価ポイントである。学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。したがって、学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

総合評価

以上の分析から、栄養学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

3. 大学のアドミッションポリシーに関する総合評価

以上の各学科の評価からは、アドミッションポリシーにかなわない学生が入学しているとは言えない。したがって、現在のアドミッションポリシーには不適切な点はないと判断される。ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生募集はおこなっていないと言える。

一方で、一部の学科における基礎学力の担保について、課題が残る。また、学生生活のイメージ形成の低さについても、新型コロナウイルス感染症が影響している可能性が予想されるものの、実際に入学者全体の約4割がイメージを持っていないことは事実であり、今後の指導に留意する必要がある。

II. カリキュラムポリシーの評価

1. 評価資料

カリキュラムポリシーの評価においては、各学科における教養・専門・卒業研究／卒業論文等の合格率と履修放棄率を用いた。

2021年度に開講されたすべての科目から卒業単位に算入されない科目を除き、残る科目を教養科目と外国語科目の必修科目、専門科目の必修科目と選択科目に分けた。これらの科目について、成績評価の内訳を整理し、成績評価の比率（秀・優・良・可）とこれらを合わせた合格率（単位修得率）を算出した。さらにこれらの科目の「放棄」の数に基づいて、履修取消者を除き、最終的な評価まで受講した履修登録者に占める履修放棄率を算出した。履修取消はGPAの算出に影響しないこと、および期首に誤って履修単位数の上限を超えて登録したために取り消した学生が含まれている（学修行動に影響する取消ではない）ことから、分析においては「放棄」のみを対象とした。

各学科の分析において用いている科目のカテゴリー名は、すべて各学科の教育課程表に準じて記載した。カリキュラムの移行がある学部・学科については、新旧それぞれの科目に分けて計算した。また、2020年度からクォーター制が導入され、2年生以上で半期科目となっている科目の一部が、1年生ではクォーター科目となっている。これらの科目については、2019年度までの入学生が同時履修している（主に再履修または文学科の他専攻履修）場合、成績評価を合算して算出することができないため、別科目として算出した。

2. 各学科の評価

2-1. 文学部文学科

①評価の対象とする科目

教養必修 18 科目、専門科目のうち各専攻の 1、2 年次の必修または選択必修科目、必修の学科共通専門計 26 科目、専門選択 164 科目（4 専攻分）、卒業研究 1 科目に分け、合格率と履修放棄率を算出した。各専攻の 1、2 年次必修・選択必修科目には、2 年次以降に開講している専攻以外の専攻の学生が履修している科目が含まれており、いずれか 1 専攻の合格率だけを示した数値ではないことに注意されたい。

②合格率と履修放棄率

教養必修 16 科目の合格率の平均は 95.0%であった。専門科目については、必修・選択必修科目の合格率の平均は 90.2%で、26 科目中 6 科目（23.1%）が合格率 100%であった。専門選択科目では、合格率の平均は 94.8%であった。164 科目中 71 科目（43.3%）が合格率 100%であった。

履修放棄率は、教養必修 16 科目では 2.2%であった。専門科目の履修放棄率は、必修・選択必修科目で 6.4%、選択科目で 2.3%であった。対象とした 209 科目のうち、履修放棄率が 10%を超えた科目が 11 科目あるが、これらの科目には履修登録が 15 名未満のものが多い。

評価内訳については、対象とした 209 科目において「秀」が 19.0%、「優」が 28.3%、「良」が 24.1%、「可」が 22.7%であった。教養必修科目では、「秀」と「優」の合計が 59.7%に達しているが、その他の科目カテゴリーでは、40%～47%程度である。教養必修科目の「秀」と「優」の比率の高さは、科目の性質上評価が高くなる傾向のある科目を含むためである。

評価

本学科では、対象とした主要科目の履修につまずきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画に齟齬を来す欠点はないと判断する。

2-2. 文学部教育学科／教育学部教育学科

①評価の対象とする科目

教育学部の設置に伴い、文学部教育学科と教育学部教育学科を合算して分析した。教養必修9科目、専門必修15科目、専門選択92科目、卒業研究1科目に分けて、合格率と履修放棄率を算出した。

②合格率と履修放棄率

合格率については、教養必修科目の平均が95.4%、専門必修科目の平均が90.7%、専門選択科目の平均が95.4%であった。卒業研究は、合格率97.4%であった。合格率が100%に達した科目数は、教養必修科目では、9科目中1科目(11.1%)、専門必修科目では15科目中5科目(33.3%)、専門選択科目では92科目中33科目(35.9%)であった。

履修放棄率の平均は、教養必修科目2.8%、専門必修科目1.6%と、必修科目はいずれも平均が5%未満であった。専門選択科目では3.1%であった。専門選択科目の中に、放棄率が10%を超えた科目が2科目ある。

評価内訳については、対象とした117科目において「秀」が26.3%、「優」が34.9%、「良」が22.1%、「可」が13.0%であった。専門必修科目において、「秀」と「優」の合計が66.7%に達しているが、その他の科目カテゴリーでも55%を超えている。対象科目全体としても「秀」と「優」の合計が61.1%に達しており、学科全体で評価が高めになる傾向がある。

評価

対象とした主要科目の履修につまずきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。現状の評価からはカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。

2-3. 経営情報学部経営情報学科

①評価の対象とする科目

2020年度の経済学部設置に伴って募集停止となったため、所属している学生は4年生のみである。そのため対象となる科目は合計で73科目に留まる。教養必修3科目、専門必修4科目、専門選択64科目、卒業研究相当2科目に分け、合格率と履修放棄率を算出した。

②合格率と履修放棄率

教養必修科目については、合格率の平均が44.4%であった。受講生をすべて合計しても8名しかおらず、さらに3科目のうち1科目が合格率0%であるためである。専門科目については、必修科目の合格率の平均は100.0%で、対象とした4科目すべてで受講生が全員合格となった。選択科目の合格率の平均は66.8%、卒業研究相当科目の合格率の平均は99.0%であった。合格率が100%に達した科目は、教養必修科目にはなく、専門必修4科目、専門選択8科目の合計12科目（16.4%）であった。

履修放棄率は、教養必修科目が33.3%、専門必修科目が0.0%、専門選択科目が20.8%、卒業研究相当科目が0.8%であった。教養必修科目以外で履修放棄率が50%を超えた科目が6科目、20%を超えた科目が25科目ある。

評価内訳については、「秀」が12.3%、「優」が21.3%、「良」が20.9%、「可」が30.8%となり、「秀」と「優」の合計は33.7%である。対象科目が専門選択科目に偏っていることもあり、このカテゴリーの傾向がそのまま全体の傾向として現れている。専門選択科目の「秀」と「優」の合計は20.3%である。

評価

本学科の分析は4年生のみが対象となっており、さらに教育課程の学年配当上では、3年生以下の配当となっている科目が多数含まれている。したがって対象科目の履修者には相当数の再履修や、最後まで単位が不足気味だった学生が含まれている可能性がある。そのことも考慮しなければならないが、最終学年で必修科目の放棄率が高い科目があることは問題である。

2-4. 経済学部経済学科／経営学科

①評価の対象とする科目

経済学部は2020年度開設で、在籍しているのは1～3年生である。対象とする科目の一部が経済学科と経営学科共通で開講されているため、共通で開講されている科目と、学科ごとの科目に分けて分析した。対象科目は以下の通りである。卒業研究相当科目はまだ開講されていない。

【共通科目】教養必修10科目、専門必修2科目、専門選択13科目

【経済学科科目】専門必修3科目、専門選択32科目

【経営学科科目】専門必修3科目、専門選択29科目

②合格率と履修放棄率

【共通科目】 合格率の平均は、教養必修科目94.8%、専門必修科目98.9%、専門選択科目88.0%であった。合格率が100%に達した科目は、教養必修科目2科目のみである。

履修放棄率の平均は、教養必修科目1.4%、専門必修科目0.0%、専門選択科目3.4%であった。履修放棄率が20%を超える科目はなかった。

評価内訳については、「秀」が17.6%、「優」が21.4%、「良」が22.5%、「可」が30.7%となり、全体としてやや低い方へ偏る傾向がある。専門選択科目の「秀」と「優」の合計は22.1%に留まっており、この傾向が全体の傾向へと反映されていると考えられる。

【経済学科科目】 合格率の平均は、専門必修科目89.4%、専門選択科目89.0%であった。合格率が100%に達した科目は、専門選択科目2科目のみである。

履修放棄率の平均は、専門必修科目6.1%、専門選択科目3.7%であった。履修放棄率が20%を超えたのは専門選択科目の2科目であった。

評価内訳については、「秀」が15.5%、「優」が24.0%、「良」が23.8%、「可」が26.3%となり、全体として低い方へ偏る傾向がある。これは、対象とした2つの科目カテゴリーに共通する傾向である。

【経営学科科目】 合格率の平均は、専門必修科目88.5%、専門選択科目78.5%であった。合格率が100%に達した科目は、専門選択科目2科目のみである。

履修放棄率の平均は、専門必修科目7.2%、専門選択科目8.4%であった。履修放棄率が20%を超えたのは専門選択科目の2科目であった。ただし、10%台の科目は複数ある。また2科目のうち1科目は履修者2名のうち1名が放棄したため、履修放棄率が50%に達している。

評価内訳については、「秀」が15.3%、「優」が17.0%、「良」が20.4%、「可」が28.3%となり、全体として低い方へ偏る傾向がある。これは、対象とした2つの科目カテゴリーに共通する傾向である。

評価

本学科では、対象とした主要科目の履修に大きな齟齬は認められず、学生は特につまずくことなく学修を進められている。ただし、今回対象とした科目では、他学科に比べて合格率100%に達する科目が少なく、また全体として評価が低い方へ偏る傾向があることには留意すべきである。

2-5. 経済情報学部経済情報学科

①評価の対象とする科目

経済情報学部は2020年度開設で、在籍しているのは1～3年生である。教養必修10科目、専門必修5科目、専門選択64科目に分け、合格率と履修放棄率を算出した。卒業研究相当科目はまだ開講されていない。

②合格率と履修放棄率

合格率の平均は、教養必修科目96.6%、専門必修科目98.9%、専門選択科目87.1%であった。合格率が100%に達した科目は、教養必修科目8科目、専門必修科目3科目、専門選択科目7科目、合計18科目(22.8%)であった。必修科目で合格率100%に達する科目が多く、教養と必修合わせて15科目中11科目(73.3%)であった。

履修放棄率の平均は、教養必修科目0.9%、専門必修科目0.5%、専門選択科目が4.1%であった。履修放棄率が20%を超える科目は、専門選択科目2科目であった。

評価内訳については、「秀」が22.5%、「優」が22.3%、「良」が21.8%、「可」が23.0%となり、ほぼ均等である。これは対象とした科目カテゴリーに共通する傾向である。一昨年度は高い評価に偏る傾向が見られたが、徐々に均等化している。

評価

本学科では、対象とした主要科目の履修に大きな齟齬は認められず、学生は概ね順調に学修を勧められていると認められる。

2-6. 芸術学部芸術学科

①評価の対象とする科目

教養必修 14 科目、専門必修 7 科目、専門選択 188 科目、卒業研究相当 1 科目に分け、合格率と履修放棄率を算出した。

②合格率と履修放棄率

合格率の平均は、教養必修科目 94.7%、専門必修科目 98.9%、専門選択科目 93.0%、卒業研究相当科目 100.0%であった。合格率 100%に達した科目は、教養必修科目 4 科目、専門必修科目 3 科目、専門選択科目 84 科目、卒業研究相当科目 1 科目で、対象 210 科目中 92 科目（43.8%）であった。

履修放棄率は、教養必修科目 2.4%、専門必修科目 0.0%、専門選択科目 1.5%、卒業制作 0.0%であった。履修放棄率が 20%を超えた科目が 4 科目あり、いずれも専門選択科目であった。

評価内訳については、「秀」が 15.3%、「優」が 32.4%、「良」が 28.0%、「可」が 17.9%となり、「優」と「良」の比率が高くなる傾向がある。この傾向は、対象とした科目カテゴリーに共通してみられる傾向である。

評価

芸術学科においては、対象とした科目の履修においてつまずきや著しい理解不足はなく、学生たちは堅調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の困難・不備はないと判断する。

2-7. 人間健康学部／スポーツ科学部

2-7-1. 人間健康学部スポーツ健康学科

①評価の対象とする科目

教養必修 8 科目、専門必修 14 科目、専門選択 68 科目、卒業研究相当科目 1 科目に分けて、合格率と履修放棄率を算出した。2021 年度のスポーツ科学部スポーツ科学科の設置に伴って募集停止となったため、在籍している学生は 3, 4 年生である。

②合格率と履修放棄率

合格率の平均は、教養必修科目 85.5%、専門必修科目 95.7%、専門選択科目で 89.0%、卒業研究相当科目 100.0%であった。合格率が 100%となった科目は、教養必修 4 科目、専門必修 5 科目、専門選択 21 科目、卒業研究相当 1 科目で、合計 31 科目（34.1%）であった。合格率 0.0%の科目があるが、うち 1 科目は履修登録者全員が保留となっている実技科目で、学外施設等での実施が必要な科目である。新型コロナウイルス感染症の影響下では実施が困難であった科目である。もう 1 科目は履修者 1 名が放棄したためである。

履修放棄率の平均は、教養必修科目で 12.5%、専門必修科目で 1.3%、専門選択科目で 6.2%であった。履修放棄率が 20%を超える科目は 7 科目であった。昨年度は大半が実技科目であったが、今年度は講義科目も含まれている。

評価内訳については、「秀」が 15.6%、「優」が 29.7%、「良」が 26.1%、「可」が 21.3%となった。「秀」と「優」の合計は 45.3%であった。対象とした科目カテゴリーのうち、卒業研究では「秀」と「優」の合計が 80.3%に達するが、それ以外の科目カテゴリーでは、対象全体の傾向と同じような比率となっている。一昨年度に見られた低い方への偏りは、昨年度に続き改善傾向にある。

評価

スポーツ健康学科では、成績評価を正規分布するよう心がけている。実際に、対象とした科目の評価割合にはその傾向が見られる。対象とした科目の履修につまづきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。

2-7-2. スポーツ科学部スポーツ科学科

①評価の対象とする科目

スポーツ科学部スポーツ科学科は 2021 年度に開設された学科で、在籍しているのは 1, 2 年生である。教養必修 8 科目、専門必修 9 科目、専門選択 39 科目に分けて、合格率と履修放棄率を算出した。卒業研究はまだ開講されていない。

②合格率と履修放棄率

合格率の平均は、教養必修科目 94.6%、専門必修科目で 95.8%、専門選択科目で 89.6%であった。合格率が 100%となった科目は、教養必修 3 科目、専門必修 1 科目、専門選択 4 科目で、対象 56 科目中 9 科目（16.1%）であった。

履修放棄率は、教養必修科目で 1.6%、専門必修科目で 0.9%、専門選択科目で 3.1%であった。履修放棄率が 20%を超える科目はなかった。

評価内訳については、「秀」が 15.6%、「優」が 29.6%、「良」が 29.7%、「可」が 18.6%となった。「秀」と「優」の合計は 45.1%であった。「優」と「良」の合計が 59.3%となり、中間部分に評価が集まる傾向が見てとれる。

評価

スポーツ科学科でも、成績評価を正規分布するよう心がけている。実際に、対象とした科目の評価割合にはその傾向が見られる。対象とした科目の履修につまずきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。

2-8. 人間健康学部／栄養学部

2-8-1. 健康栄養学科

①評価の対象とする科目

教養必修 2 科目、専門必修 9 科目、専門選択 25 科目、卒業研究 2 科目に分け、合格率と履修放棄率を算出した。2021 年度の栄養学部栄養学科の開設に伴って募集停止となったため、在籍している学生は 3、4 年生である。

②合格率と履修放棄率

健康栄養学科では、国家試験の受験資格を得るためには単位の修得が不可欠な科目が多く配置されていることから、対象とした科目については合格率の高さと履修放棄率の低さが顕著である。

合格率の平均は、教養必修科目 100.0%、専門必修科目で 99.6%、専門選択科目で 93.1%、卒業研究で 100.0%であった。合格率が 100%となった科目は、教養必修科目で 2 科目、専門必修科目で 7 科目、専門選択科目で 9 科目、卒業研究 2 科目で、対象 38 科目中 20 科目（52.6%）であった。対象科目のうち合格率が 90%未満の科目は 4 科目あり、さらにこのうちの 1 科目が合格率 50%未満である。

履修放棄率は、教養必修科目と卒業研究で 0.0%、専門必修科目で 0.1%、専門選択科目で 1.7%となり、いずれも 2%未満であった。履修放棄率が 0.0%の科目は 27 科目（71.1%）であった。

評価内訳については、「秀」が 16.1%、「優」が 32.5%、「良」が 28.0%、「可」が 19.1%となった。「秀」と「優」の合計は 48.7%であった。教養必修科目、専門科目では「優」と「良」の評価割合が高くなる傾向があり、対象科目全体で「優」と「良」の合計は 70.3%であった。卒業研究のみ「秀」と「優」の合計が 88.2%となっている。

評価

対象とした主要科目の履修につまずきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。前々年度から見られていた一部の実験・実習科目で低い評価に顕著に偏る傾向については、概ね解消されている。対象とした科目の履修につまずきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。

2-8-2. 栄養学科

①評価の対象とする科目

栄養学部栄養学科は 2021 年度に開設された学科で、在籍しているのは 1、2 年生である。教養必修 7 科目、専門必修 32 科目、専門選択 9 科目に分けて、合格率と履修放棄率を算出した。卒業研究はまだ開講されていない。

②合格率と履修放棄率

栄養学科では、国家試験の受験資格を得るためには単位の修得が不可欠な科目が多く配置されていることから、対象とした科目については合格率の高さと履修放棄率の低さが顕著である。

合格率の平均は、教養必修科目で 100.0%、専門必修科目で 98.4%、専門選択科目で 97.5%であった。合格率が 100%となった科目は、教養必修科目 4 科目、専門必修科目 11 科目、専門選択科目 2 科目で、対象とした 48 科目中 17 科目（35.4%）であった。対象とした科目のうち、合格率が最も低い科目でも 84.7%に達している。

履修放棄率は、教養必修科目で 0.0%、専門必修科目で 0.1%、専門選択科目で 0.4%となり、いずれも 1%未満であった。履修放棄率が 20%を超える科目はなく、最大でも 1.4%である。すべての科目で履修放棄率は 5%以下で、実数では合計 3915 名の履修者に対して履修放棄は 6 名であった。であり、履修放棄率が 0.0%の科目は 48 科目中 42 科目（87.5%）であった。

評価内訳については、「秀」が 17.0%、「優」が 28.2%、「良」が 27.3%、「可」が 24.4%となった。「秀」と「優」の合計は 56.8%であった。専門科目では「優」と「良」の評価割合が高くなる傾向があり、対象科目全体で「優」と「良」の合計は 55.5%であった。教養必修科目のみ「秀」と「優」の合計が 65.3%となっている。

評価

対象とした主要科目の履修につまずきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。健康栄養学科に見られる実習・実験科目で評価が低い方に偏る傾向は、栄養学科の科目では見られず、「優」と「良」に評価が集まる傾向がある。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。

3. 大学のカリキュラムポリシーに関する総合評価

大学においては、カリキュラム（教育課程）は、カリキュラムポリシーに沿って編成されている。このカリキュラム編成に何らかの不備や瑕疵があるならば、学生の学びは順調に進まないことが予測される。また特定の科目に低評価が集中する、あるいは履修放棄率が極端に高くなるなどの結果が見られた場合、段階を踏んで学ぶように設計されたカリキュラムの中に、つまづきを誘発する要素（その段階にそぐわない内容や難易度）があると考えられる。今回の各学科の教育成果の評価においては、このような問題点は見当たらなかった。スポーツ健康学科／スポーツ科学科では、一部の実技系科目に、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響（保留者が多いことによる合格率の低さ）が見られているが、これは不可抗力と言ってよい。

したがって、即時にカリキュラムの改訂ならびにカリキュラムポリシーの見直しが必要になるような状況は存在せず、ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない教育課程にはなっていないと言える。ただし、一部の学科に見られた履修放棄率の高さ並びに低い評価への偏りについては、今後の詳細な検討を必要とする。とりわけ、過年度生が履修する場合に高い履修放棄率・低い合格率が見られているので、指導に留意する必要がある。

III. ディプロマポリシーの評価

1. 評価資料

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

各学科の科目から、必修の卒業研究、卒業制作を選び、その合格率、履修放棄率、各成績の内訳を算出した。()内の数字は、前年度比の数値である。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2019年4月の入学者のうち、2023年3月に4年間で教育課程を修了して卒業した学生の数を、当該の学年が入学した当初の入学者数に対する割合で示した。この分析においては、卒業した学生数に3年次編入生は含んでいない。

③就職内定率

2023年3月31日現在の各学科の就職希望者に対する内定者数の割合で示した。この分析においては、3年次編入生を含めた数値となっている。

文学部教育学科においては教員採用試験、保育士採用等の合格率、健康栄養学科においては管理栄養士国家試験の合格率も、合わせて示した。

2. 各学科の評価

2-1. 文学部

2-1-1. 文学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

文学科全体で183名（前年度は151名）が履修し、合格率は99.5%（同98.7%）であった。放棄が1名（同1名）おり、履修放棄率は0.5%（同0.7%）であった。評価割合は、「秀」が19.0%（同18.3%）、「優」が28.3%（同33.3%）、「良」が24.1%（同32.7%）、「可」が22.7%（同14.4%）であった。前年度と比較して、「優」が減少し、「良」、「可」が増加したが、全体としての評価割合に差異は認められなかった。「秀」または「優」の比率は、履修者全体の47.0%（同51.6%）であった。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2019年4月に入学した学生は189名であった。このうち87.8%に相当する166名が、4年間で教育課程を修了し2022年3月に卒業した（前年度比+4.9ポイント）。

③就職内定率

就職希望者160名の全員が内定を得た（内定率100.0%、前年度比+2.5ポイント）。大学院等への進学は7名であった。

評価

以上①から③までの評価に基づき、2022年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-1-2. 教育学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

学科全体で76名が履修し、合格率は97.4%（前年度100.0%）、履修放棄率は2.6%（同0.0%）であった。評価割合は、「秀」が35.5%（同54.0%）、「優」が44.7%（同30.0%）、「良」が17.1%（同8.0%）、「可」が0.0%（同8.0%）であった。「秀」または「優」の比率は、履修者全体の80.3%であった。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2019年4月に入学した学生は89名であった。このうち89.0%に相当する72名が、4年間で教育課程を修了し2023年3月に卒業した（前年度比-9ポイント）。

③就職内定率

就職希望者69名の全員が内定を得た（内定率100.0%、前年度比増減なし）であった。内定者には、下記の教員採用試験の合格者や幼稚園教諭、保育士の合格者に加え、各自治体の講師採用者が含まれる。大学院等への進学は1名であった。

教員採用試験の状況については、33名の学生が延べ12自治体を受験した。合格者の実人数は24名で、合格率は72.7%であった（前年度比+25.9%）。

公立の保育士・幼稚園教諭については、7名の学生が延べ10自治体を受験した。合格者の実人数は5名で、合格率は71.4%であった（前年度比+21.4ポイント）。

その他、私立幼稚園に1名、認定こども園のうち幼保連携型施設に6名、保育所型施設に1名の計8名が合格した。

評価

以上①から③までの評価に基づき、2022年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-2. 経営情報学部経営情報学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

経営情報学科で卒業研究に相当する科目は、「演習Ⅰ」（前期）と「演習Ⅱ」（後期）の2科目である。「演習Ⅰ」の合格率は99.0%（前年度100.0%）であった。評価割合は、「秀」35.2%（同21.9%）、「優」42.0%（同43.8%）、「良」10.9%（同20.7%）、「可」10.9%（同13.6%）であった。履修者全体の77.2%（同65.7%）が「秀」または「優」であった。

「演習Ⅱ」の合格率は99.0%（同100.0%）であった。評価割合は、「秀」31.3%（同21.4%）、「優」41.7%（同42.3%）、「良」18.8%（同18.5%）、「可」7.3%（同17.9%）であった。履修者全体の72.9%（同63.7%）が「秀」または「優」であった。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2019年4月に入学した学生は216名であった。このうち85.2%に相当する184名が、4年間で教育課程を修了し2023年3月に卒業した（前年度比-1.6ポイント）。

③就職内定率

就職希望者182名に対して、内定者は181名（内定率99.5%、前年度比+0.1ポイント）であった。大学院等への進学者はいなかった。

評価

以上①から③までの評価に基づき、2022年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-3. 経済学部

2-3-1. 経済学科

完成年度を迎えていないため、2022年度は卒業生を輩出していない。

2-3-2. 経営学科

完成年度を迎えていないため、2022年度は卒業生を輩出していない。

2-4. 経済情報学部経済情報学科

完成年度を迎えていないため、2022年度は卒業生を輩出していない。

2-5. 芸術学部芸術学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

芸術学科の卒業研究相当科目は「卒業制作・研究Ⅱ」である。「卒業制作・研究Ⅱ」は、75名が履修履修（前年度67名）し、合格率は100.0%（同100.0%）であった。履修放棄した者は、前年度と同様にいなかった。評価割合は、「秀」18.7%（同19.4%）、「優」36.0%（同35.8%）、「良」28.0%（同32.8%）、「可」17.3%（同11.9%）であった。履修者全体の54.7%（同55.2%）が「秀」または「優」であった。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2019年4月に入学した学生は79名であった。このうち91.1%に相当する72名が、4年間で教育課程を修了し2023年3月に卒業した（前年度比4.6ポイント）。

③就職内定率

就職希望者69名の全員が内定を得た（内定率100.0%、前年度比増減なし）。大学院等への進学は4名であった。

評価

以上①から③までの評価に基づき、2022年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-6. 人間健康学部／スポーツ科学部／栄養学部

2-6-1. 人間健康学部スポーツ健康学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

スポーツ健康学科の卒業研究に相当する科目は「専門演習Ⅱ」である。スポーツ健康学科全体で147名が履修し、合格率は100.0%（同100.0%）であった。履修放棄した者はいなかった。評価割合は、「秀」41.5%（同43.4%）、「優」38.8%（同34.1%）、「良」11.6%（同14.0%）、「可」8.2%（同8.5%）であった。履修者全体の80.3%が「秀」または「優」であった（前年度77.5%）。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2019年4月に入学した学生は153名であった。このうち90.8%に相当する139名が、4年間で教育課程を修了し2022年3月に卒業した（前年度比-2.4ポイント）。

③就職内定率

就職希望者142名の全員が内定を得た（内定率100.0%、前年度比増減なし）。大学院等への進学は3名であった。

評価

「専門演習Ⅱ」は、「秀」と「優」の評価が履修者全体の80%以上となった。熱心に卒業研究へ取り組む優秀な学生が多く、順調な学修成果を上げたと判断する。

以上①から③までの評価に基づき、2022年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-6-2. スポーツ科学部スポーツ科学科

完成年度を迎えていないため、2022年度は卒業生を輩出していない。

2-6-3. 健康栄養学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

健康栄養学科の卒業研究相当科目は、「卒業研究Ⅰ」（前期）と「卒業研究Ⅱ」（後期）の2科目である。「卒業研究Ⅰ」は72名が履修し、合格率は100.0%（前年度100.0%）で、前年度と同じく履修放棄した者はいなかった。評価の割合は、「秀」31.9%（同21.3%）、「優」55.6%（同56.0%）、「良」9.7%（同21.3%）、「可」2.8%（同1.3%）であった。履修者全体の87.5%が「秀」または「優」であった（同77.3%）。「卒業研究Ⅱ」は72名が履修し、合格率は100.0%（同100.0%）で、履修放棄した者はいなかった。評価割合は、「秀」48.6%（同27.6%）、「優」40.3%（同53.9%）、「良」9.7%（同18.4%）、「可」1.4%（同0.0%）であった。履修者全体の88.9%（同81.6%）が「秀」または「優」であった。

2科目平均の合格率は100.0%であった。「秀」と「優」の比率は、2科目全体で88.2%（前年度79.5%）であった。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2019年度4月に入学した学生は77名であった。このうち88.3%に相当する68名が、4年間で教育課程を修了し2023年3月に卒業した（前年度比+7.8ポイント）。

③就職内定率および管理栄養士国家試験合格率

就職希望者71名の全員が内定を得た（内定率100.0%、前年度比増減なし）。管理栄養士国家試験の合格率は、86.0%（前年度比+9ポイント、全国新卒者合格率比+1.3ポイント）であった。

評価

「卒業研究Ⅰ」および「卒業研究Ⅱ」は、全員が合格し、履修者全体の85%以上が「秀」または「優」となり、熱心に卒業研究へ取り組む優秀な学生が多かったことがうかがえる。また管理栄養士国家試験の合格率の高さからも、順調な学修成果を上げたことが示されている。以上①から③までの評価に基づき、2022年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-6-4. 栄養学部栄養学科

完成年度を迎えていないため、2022年度は卒業生を輩出していない。

3. ディプロマポリシーに関する総合評価

以上の評価により、大学においては、現在のディプロマポリシーに実情に合わない不適切な点はないと判断される。ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生には学位を授与していないと言える。